

# 歴史と文化かおるいにしえの街道

## 越後米沢街道・十三峠とは

山形県置賜地域と新潟県下越地域をむすぶ街道で、伊達種宗(たねむね・正宗の曾祖父)が1521年に大里峠を開いたのが始まりといわれる。この街道には大小13の峠があることから十三峠と呼ばれる。それまでは幾多の変遷を経てルートは変更されたようである。大里峠の開削を契機に他の峠も順次開削され、多くの道普請が行われた。特に1800年代に行われた大規模な改修工事の供養塔(記念碑)が今も宇津峠の頂上に建っている。

米沢方面からは、布などの材料となる青芋(あおそ)、煙草、米などが運ばれ、堀り荷は、鉄、塩、肴類、綿織物などであった。交通手段は主に馬であったが、牛方と背負子に取って代わっていった。

明治18年、三島通庸によって、いわゆる小国新道が開設されてからは、この峠道は衰退することとなった。

この地域内の観光名所として、川西町のダリヤ園、飯豊町のユリ園、小国町の赤芝峡・片瀧門・健康の森よこね(朴の木峠)、関川村のせきかわ温泉郷・国指定重要文化財渡邊邸などがあり、飯豊町・小国町・関川村にそれぞれ道の駅がある。



## 越後米沢街道・十三峠交流会

文化的・歴史的な地域振興資源として街道を保存、整備し活用を図って協働のまちづくりに寄与するため、平成20年地元各団体で「越後米沢街道・十三峠交流会」が結成された。国道113号の山形県川西町～新潟県関川村周辺を対象に、峠の復元、ウォーキングイベントや峠まつり、フォトコンテスト、東北街道交流事業などの活動を展開し、日本風景街道「越後米沢街道・十三峠」のパートナーシップとなっている。

### 構成団体

- 小松地区地域づくり協議会
- NPO法人ここ掘れ和ん話ん探検隊
- 山形県飯豊町
- 手ノ子地区協議会
- 米沢街道地域づくり検討会
- 山形県小国町
- 黒沢峠敷石道保存会
- 小国町観光協議会
- 新潟県関川村
- 玉川地域振興協議会
- 飯豊少年自然の家
- 山形県置賜総合支庁
- 関川村自然管理公社
- 山形県川西町
- 国土交通省山形河川国道事務所



萱野峠敷石掘り作業風景



萱野峠で敷石掘り後の記念撮影



毎年2回開かれる宇津峠歩こう会



黒沢峠の敷石道をトレッキング



毎年紅葉の時期に開催される黒沢峠まつり



小国町と関川村共催の大里峠越え交流会

## 明治時代、越後米沢街道十三峠を旅した英国人 イザベラ・バード



イザベラ・バード  
Isabella Bird  
(1831-1904)

十三峠を通った人物で著名なのは、イギリスの女性旅行作家イザベラ・バードです。

バードは、明治11年(1878年)5月から3ヶ月にわたり東日本を旅した記録を「日本奥地紀行」として残しています。越後米沢街道には7月11日に新潟県関川村沼、7月12日は小国町市野々(いちのの)、7月13日には川西町小松に泊まっています。

十三峠の山中では「大きな山岳地帯に難儀したこと」が記されるとともに、米沢平野を「東洋のアルカディア」と称したことは有名です。

## 越後米沢街道十三峠の歴史

- 1598年 直江兼統、三十万石を領し、米沢に入る。駅場を設けて問屋を定め、物資の輸送手配などにあたられた。
- 1645年 徳川幕府(家光の代)の命により「正保二年の羽田国絵図」の作成。(越後米沢街道を含む)
- 1836年 越後米沢街道の道普請を始めた。
- 1868年 榎峠が戊辰戦争の戦場となった。
- 1878年 イギリスの女性旅行家イザベラ・バードが十三峠を旅した。(明治11年)
- 1884年 小国新道(国道113号線)開通。
- 1980年 黒沢峠敷石道保存会を設立、敷石の復元を開始した。
- 1996年 文化庁選定の「歴史の道百選」に選ばれる。(黒沢・大里・鷹巣各峠)
- 2008年 「日本風景街道」へ登録される。

## 十三峠にまつわるむかし話

### 「大里峠の大蛇伝説」

むかし関谷村(旧女川村)に、マタタビをいぶしては、大蛇を取り、3年間以上ミノ(味噌)につけたものを売って生計を立てている男が住んでいました。男の妻「お夏乃」は、縁の下に埋めてある大蛇のミノづけが食べたくて仕方ありませんでした。

ある日、夫の留守中に、お夏乃はそっとミノづけを出して、食べてみました。すると大変美味しく一掃食べつくしました。そのうちに猛烈にノドが渴き始め、近くの川で水を飲みましたが、飲めども飲めども渴きは止まりません。ふと気がついて、川の水に映った自分の姿を見ると大蛇になっていました。お夏乃は里には住めず、山にこもって山の主になりました。

ある日、この峠道を小国の玉川から一人の盲目の法師がやって来ました。いつしか日はとっぷりと暮れ、満月が空にかかっています。法師は寂しさをまぎらわすため、背負って来た琵琶を弾きはじめました。じょうじょうと響く音に誘われて、一人の女が現れて語りかけました。「わたしは、この山の主の大蛇です。美しい音色を聞かせてくれたお礼に、真いことを教えてあげましょう。」「近いうち、この辺一帯を湖にしてしまおう。」「とこのことでした。法師は大あわてで村に降り、このことを伝えるとバツパリと死んでしまいました。

村人たちは、大急ぎで鍛冶屋に蛇の鱗の鉄の杭を沢山作らせ、山肌1間(約2m)おきに打ち込みました。一番の毒である鉄を刺されたので、大蛇は7日7晩苦しみました。とうとう死んでしまいました。死体は山を7回り半巻いていたといいます。

◀関川村「大したもん蛇まつり」

## 十三峠にまつわるむかし話

### 「宇津峠の切腹松」

地蔵橋から少し上がったところの宇津峠の古道に岩塚というところがあり、その下に「切腹松」という大きな松の木があった。この松にはこんないわれがあります。

むかし、島津公(九州薩摩の殿様)の宝物に村正の名刀があった。その刀は弓のように曲げて元に戻るといった名刀だったそうです。村正というのは五郎正宗の一番弟子で、氣性が激しくて血を見ないと収まらなかったという。ところが藩士の家来がその刀を盗んだため、追っ手に追われて落ち延び、とうとう宇津峠のところで来たが見つかってしまい、この松の木の下で切腹した。刀を曲げてみたらやっぱり間違いないかったようだ。死骸は松の木の下の方に埋めたとのことです。



## アクセスガイド

山形県側から

東北自動車道、福島飯坂インターから国道13号米沢市を經由して川西町(諏訪峠)

新潟県側から

関越自動車道、日本海岸東北自動車道、荒川胎内インターから国道113号を関川村(鷹巣峠)



お問い合わせ先

NPO法人 ここ掘れ和ん話ん探検隊 内  
TEL-FAX 0238-62-5955

kokohorewanwan@opal.plata.or.jp

詳しくはコチラ ▶ 米沢 十三峠 検索



## いにしえの敷石道

# 越後米沢街道・十三峠



幾行の鴻雁  
鳴いて南に去り  
首を回らせば  
秋の蒼茫たるに  
絶えず  
千峰の落葉風雨の後  
一群の寒村  
夕日を帯ぶ  
良寛  
米沢道中の詩  
(漢詩より推定)



「越後米沢街道・十三峠」は国土交通省の「日本風景街道」に登録されています。

### 日本風景街道とは...

地域住民や企業と行政の協働により、沿道の景観を良くするだけでなく、地域の財産を守り、育み、活用するまちづくりと、そこに人々を招くためのまちづくりを一体的に行おうとする新しい取り組みです。



# 越後米沢街道・十三峠



### 鷹巣峠 たかのすとうげ 13

ピークが2つある緩やかな峠

林道が古道と同じ方向に切られており、林道と古道を交互に通る峠で、緩やかな傾斜で歩きやすい。標高は155mほどで低いピークが2つある峠で、大内淵側は米坂線の開通によって古道は分断されており迂回して通る。越後下関駅から、峠入り口下川口まで3.4km。

### 榎峠 えのきとうげ 12

戊辰戦争の戦場、供養塔あり

沼から大内淵の番所の間が、榎峠である。峠の頂上に観音さまが祀られている。榎峠は、戊辰戦争の時、米沢藩と官軍との戦場(慶応4年(1868)8月12日)となった。戊辰戦争戦死者の供養塔がひっそりと眠る、やや急坂のある峠道。峠道は、峠入り口R113から1.9km。

### 大里峠 おおりとうげ 11

大蛇伝説で有名。県境の峠

戦国時代は別ルートであったが、大永元年(1521)に伊達長種宗(たねむね)により大里峠が開かれ、玉川〜大里峠〜沼というルートになった。小国町と関川村共催で、毎年10月に大里峠越え交流会を行い親交を深めている。越後片貝駅から畑釜山峠(\*)まで4.5km。

### 萱野峠 かやのとうげ 10

緩やかな峠、敷石掘り起こし中

標高278mの緩やかで歩きやすい峠である。峠の名前は頂上近くの萱野原から名付けられたと思われる。玉川に架かる「玉川大橋」は上杉藩時代に「越後街道の三大橋」と呼ばれ、木材と藤巻などを用い橋が造られたといわれ今でも橋脚跡が見られる。小国駅から12.5km玉川より峠道に入る。

### 黒沢峠 くろさわとうげ 6

3600段の敷石が続く峠

黒沢峠は、平成8年文化庁選定の「歴史の道百選」の中で「…幅約50センチ、長さ約1.5メートルの苔むした敷き石が、頂上に向かって約3600段、ブナ林の中を続く。これほど美しく特徴ある街道は、「歴史の道百選」の中でも唯一のものだ。」と紹介されている。羽前松岡駅から峠入り口の駐車場まで2.5km。

### 宇津峠 うつとうげ 2

幾度もルートが変更、急峻な峠

宇津峠を越えるルートが開削されてからも、雪崩を避ける等のため何回かルートの変更や改修工事が行われた。十三峠の中でも特に険しい峠である。頂上近くには、そのことを物語る「道普請供養塔」「馬頭観世音」碑も残されている。毎年2回「宇津峠歩こう会」を開催し大勢の参加者で賑わっている。手ノ子駅から3km。

### 諏訪峠 すわとうげ 1

古道が部分的に残る峠

川西町と飯豊町の境にある。標高約280m、峠名は小松側にある諏訪神社にちなんだものである。十三峠の最初の峠である。川西側に古道が一部だけ残っており歩行可能。羽前小松駅から2km。

### 朴ノ木峠 ほのおきとうげ 9

頂上から飯豊・朝日の絶景が望める

朴ノ木沢のせせらぎを聞きながらの足野水側を下ると、ブナ林と古道がうまく調和した景色となり、さらに先は送電線に沿ったルートとなり足野水集落に出る。足野水側の入り口と頂上付近、共に200m位は分かりにくく注意が必要である。小国駅から登り口まで1.0km。

### 高鼻峠 たかばなとうげ 8

全線舗装路で平坦な峠

貝淵峠〜種沢〜芹出の横川を渡るルートは降雨増水の時「川止め」されるため、種沢から杉沢そして高鼻峠を越え小国に至る道を改修、晴雨に関わらず通行できるようになった。小国駅から入り口(小国小坂町)まで1.0km。

### 貝淵峠 かいのぶちとうげ 7

全長270mの小さな峠

種沢と黒沢の間にある小さな峠で刈り払いしてあり歩行は可。途中危険箇所有。小国駅から4km。

### オノ頭峠 さいのかみとうげ 4

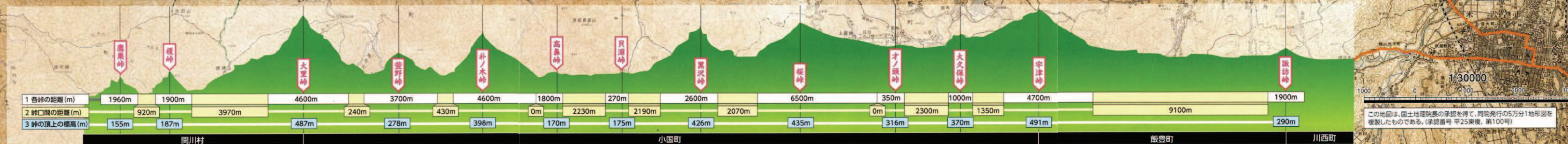
坂道のような小さい峠

オノ頭(さいのかみ)峠は、白子沢の入り口にある峠で、峠というより坂の頂上のような、ごく小さな峠であったと思われる。現在は生活道路になっており、住宅も張り付いている。羽前沼沢駅から2km。

### 大久保峠 おおくぼとうげ 3

未整備のため通れない峠

間瀬(まぜ)と運越(おそのごえ)の間の峠で、現在の国道113号の運越トンネルの北にあたる。峠には大きくぼみがある。大久保という地名は、その大窪(おおくぼ)に由来すると言われている。運越大橋手前から北に入る峠道で、道形はあるが未整備で通れない。羽前沼沢駅から1.8km。



1:30000  
この地図は、国土院院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。(承認番号 平25東復、第100号)